

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第21回)  
エリア分科会の開催報告

# エリア分科会開催概要

エリア	日程	開催地（オンライン併用）	参加者（オンライン含む）	
			分科会	人材育成 ・ 基礎講座
道央	令和7年7月15日	札幌市（北海道中小企業会館）	35名	24名
道南	令和7年8月26日	函館市（函館商工会議所）	18名	11名
道北	令和7年7月29日	旭川市（旭川トーヨーホテル）	21名	8名
道東	令和7年8月8日	釧路市 （釧路市交流プラザさいわい）	26名	13名

## プログラム

	時間
エリア分科会	2時間
人材育成事業	2時間
災害廃棄物処理基礎講座	1時間

# 議事内容

## エリア分科会

- (1) 大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会（第20回）の開催結果について
- (2) 令和6年度の各ワーキンググループの検討結果について
- (3) 災害廃棄物処理に関する情報提供
- (4) 災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討
- (5) 次年度のエリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出

## 人材育成ワークショップ（話題提供を含む）

- テーマ① 発災直後の初動対応  
テーマ② 災害廃棄物処理計画の効果検討

## 災害廃棄物処理基礎講座

- (1) 災害廃棄物とは
- (2) 災害廃棄物処理の流れ
- (3) 初動対応
- (4) 仮置場の設置とその重要性
- (5) 災害廃棄物処理の体制
- (6) 補助金申請について



エリア分科会の様子

# エリア分科会における質疑・意見(当日の意見交換より一部抜粋)

## 道央エリア

項目	課題・質問	事務局回答
災害廃棄物 処理計画策定	計画策定に関して共通の課題を抱えている自治体も多い。 <b>計画策定済みの自治体ではどのように策定におけるハードルを乗り越えたのか知りたい。</b>	<b>自治体へアンケートを行う。(結果後述)</b>
仮置場選定	仮置場の選定について公園用地を仮置場として使用できることが都市公園法には明確に記載されていない状況で仮置場として選定して良いか。	昨年、別の自治体から相談があったが、都市公園を選定するにあたり、道の都市計画所管部署に確認したところ、都市公園を仮置場として使用することは許可要件に入っていないとの回答で仮置場に選定できなかった例がある。結果的に公園が仮置場になっている場合もある。
	事前に仮置場として決めると、風評被害等の理由から公表を好まない地権者もいる。処理計画を策定する上で、どのように対応されているのか。	処理計画には、具体的に仮置場候補地のリストを掲載している例もあれば、仮置場選定の条件だけを掲載している例もある。
想定災害について	気候変動に伴って水害の発生可能性も高まっていると思うので、水害の被害についてもテーマのひとつとしてクローズアップしてほしい。	水害を想定して計画を作ることも今後は検討していきたい。
人材育成について	災害対応の経験がなくても支援に行くことができる仕組みはあるのか、また検討はされているのか。人材育成の観点から災害対応を経験することも大切ではないか。経験がある人ばかりが派遣されていては人材が育たないのではないか。	能登半島地震では、災害廃棄物処理の経験がない人も派遣された。実際に被災地を肌で感じることは人材育成の観点から重要だと考えている。

# エリア分科会における質疑・意見(当日の意見交換より一部抜粋)

## 道東エリア

項目	課題・質問	事務局回答
災害廃棄物 処理計画策定	想定される全ての災害の災害廃棄物処理方法を網羅しないと災害廃棄物処理計画として策定できないのか。	各自治体の防災計画で想定されている災害の被害をもとにした災害廃棄物処理計画を作っていたきたい。その中で特に、基幹産業は被害想定に入れて災害廃棄物処理計画を検討してほしい。
	<b>オペレーションの主体を国や北海道としたプッシュ型の支援を受けられないか。</b> 当市として出来る限り周辺市町村を支援できるように事前の準備を行いたいと思っている。実際に発災した場合に行動できるようにしたいので、そのような計画を作る際にはどのような視点が必要か。	市として支援することについては、災害時は行政や協力業者も被害を受けて被災者になる。そういった中で市としてどのように処理できるのかということ踏まえて災害廃棄物処理計画を策定して、 <b>計画を実行する際に北海道や環境事務所に支援要請することも計画に入れて良いのではないか。</b>
災害廃棄物発生量 推計	災害想定について、北海道から令和5年度千島海溝沿いの災害想定が公表され、災害廃棄物に関しては家の全壊のみの想定だった。そして、2023年に環境省環境事務所から振興局ごとに整理された具体的な被害想定資料があるが、北海道の数値と異なる。どちらの被害想定の数値を用いたらよいのか。	防災計画と整合性が取れて市として説明できる数値を用いるのが良いのではないかと。災害想定の数値は適宜見直されており、最新のものを採用するのも良い。
災害時の情報伝達	支援について、当市は仮に想定どおりの甚大な被害を受けると、行政機能は麻痺すると思われるので、支援を要請すること自体できない可能性がある。	大規模災害が発生した際、環境省は発災時に情報を待っているのではなく、全国に7か所ある地方環境事務所職員が現地に入り情報収集を行うこととなる。そこからどのような支援が必要なのか抽出していく。

# エリア分科会における質疑・意見(当日の意見交換より一部抜粋)

## 道北エリア

項目	課題・質問	事務局回答
<p>災害廃棄物 処理計画策定</p>	<p>災害廃棄物発生量を推計するための係数は随時見直されている。すでに計画を作成している自治体は、作成時に使用した係数と最新の係数で発生量の差が生じていると思うが、発生量の差について計画を作成している自治体はどのような対応をしているのか。</p>	<p>過去に作られた計画は係数が最新ではないのが実情だが、北海道の計画策定率は49%なのでまずは計画を作ってください、すでに計画を作成している自治体は最新の知見を踏まえて計画改定をしていただきたい。</p>
<p>災害廃棄物 発生量推計</p>	<p>北海道の計画での災害廃棄物発生量と、自治体が推計している災害廃棄物発生量は整合が取れているのか。想定災害の規模も合わせているのかどうか。</p>	<p>計画の策定期間により係数や想定災害が異なるため合わせられていない。災害想定については災害廃棄物というより防災サイドで被災家屋など更新される。北海道が計画改定したのと同時に全ての自治体でも計画改定すれば(整合性が)合うが現実的に難しい。</p>
<p>エリア区分</p>	<p>エリアに関して、稚内市や旭川市も含めて道北エリアとしてまとめられているが、地震が起きたときには海辺は内陸よりも津波の被害があるなど、<b>被害の質がエリアの中で違って災害廃棄物の種類も違ってくるのに同じ対策をエリアの中で進めても問題ないのかどうか、また、このエリアの区分で合っているのか。</b></p>	<p>エリアの中でも想定される災害が違うことは承知している。災害廃棄物は、一般廃棄物に該当するという事で各自治体が処理することが定められているが、ブロック協議会やエリア分科会の中で想定する災害は、広域が被災するような災害であり、一自治体では処理が不可能な災害廃棄物量を想定しているため、振興局、エリア、北海道や全国的な対応が求められる。そのため、<b>道北エリアで災害廃棄物の処理を協力する</b>という意味でのエリア分けと理解していただければと思う。</p>

# エリア分科会における質疑・意見(当日の意見交換より一部抜粋)

## 道南エリア

項目	課題・質問	事務局回答
災害廃棄物 処理計画策定	数値はワークシートを使って推計することができたが、図面の作成が難しく自治体担当者だけでは行き詰まるがあった。 <b>図面を作成することができたのはプッシュ型支援が大きかった。</b>	市町村には図面等を作成する上で必要なソフトウェア、アプリケーションを導入する課題もあるかと思うため、今年度の計画策定・改定WGの際にそのようなご意見をいただければ可能な限り協力したい。
便乗ごみ対策	当町では床上浸水で水没した家財道具等については、罹災証明書を発行して災害廃棄物として受け入れている。罹災証明書を1件1件発行することに困難な状況もある中で、明らかに水没していない災害廃棄物には当てはまらないごみを災害廃棄物として一緒に出されてしまうこともあるかと思う。そのことについて他の自治体はどのように判断しているのか。	便乗ごみについては、罹災証明書を持って仮置場にごみを持ち込んでくる中で、今は使われていないブラウン管テレビや(水害であれば)明らかに水が付いてないものなど災害で発生したごみでない場合は持ち帰っていただく対応をしている自治体もある。どこまで厳密に対応すればいいのか難しいとは思いますが、どこで線引きをするのかは各自治体での判断になる。

いずれのエリアにおいても、**災害廃棄物処理計画策定**に関する課題が広く挙げられた。現在の各エリアの処理計画の策定率のほか、「災害廃棄物処理計画に関するアンケート結果(本資料p.8~)」を踏まえ、人材育成事業等を活用した、処理計画の策定促進、改定による実効性の向上策を検討していく必要があると考えられる。

# 災害廃棄物処理計画に関するアンケート結果

災害廃棄物処理計画の策定状況、策定に関する課題等をアンケートにより調査した。

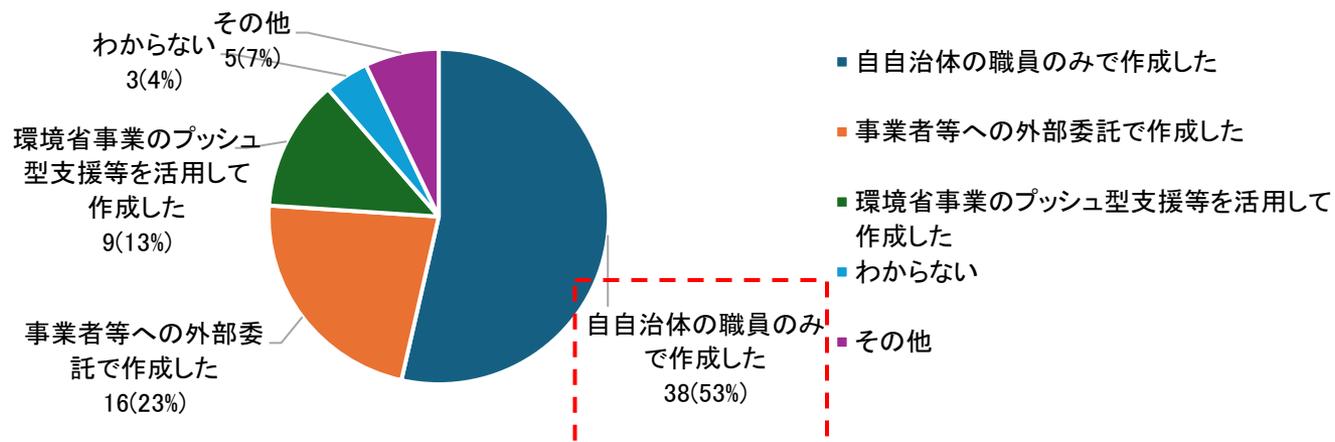
調査対象：道内179市町村  
回答数：135市町村（回答率75%）

## Q1 災害廃棄物処理計画策定状況

策定状況	市町村数
策定済	69
未策定	63
その他	3

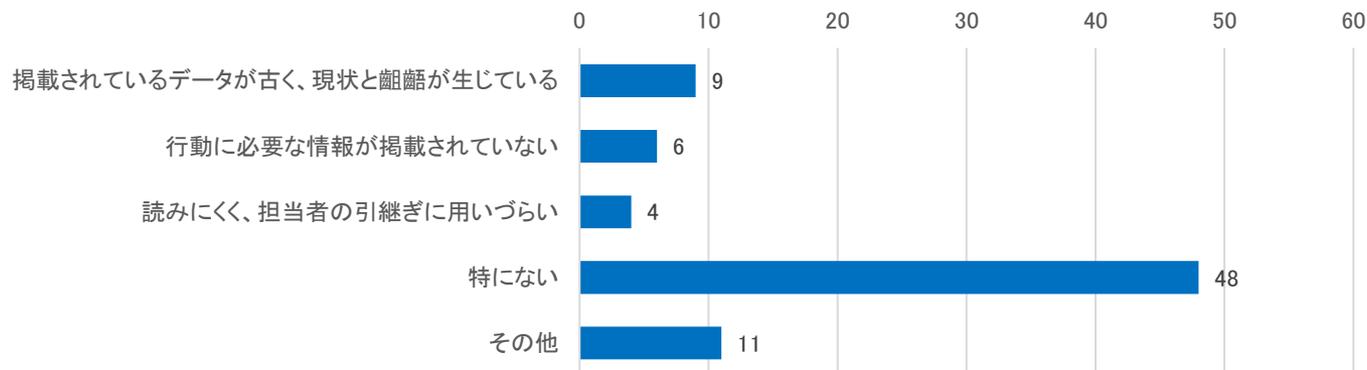
※その他：防災計画に定められている等

## Q2 計画案はどのように作成されましたか。



# 災害廃棄物処理計画に関するアンケート結果

## Q3 現在の計画について、課題と感ずる点(複数選択)



### その他内容

仮置場の設置予定場所について町内会等との合意形成が必要

仮置場の基準は定めているが、具体的な場所の選定を行っていない

特にないが、地域防災計画の改定を予定しているのに準じて処理計画も改定する。

北海道災害廃棄物処理計画より早く策定した計画であるため、内容に齟齬が生じている

小規模単独町村で災害廃棄物処理を実施することは初動の段階では人員に難しく、広域の処理について前向きに検討した方がよい

実際の災害に際した場合、どの程度有効に機能するかどうか不明

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震にかかる想定、対応の追記等について検討

仮置場の動線を含め、より具体的な選定候補地を内部的に複数ピックアップすることも検討が必要

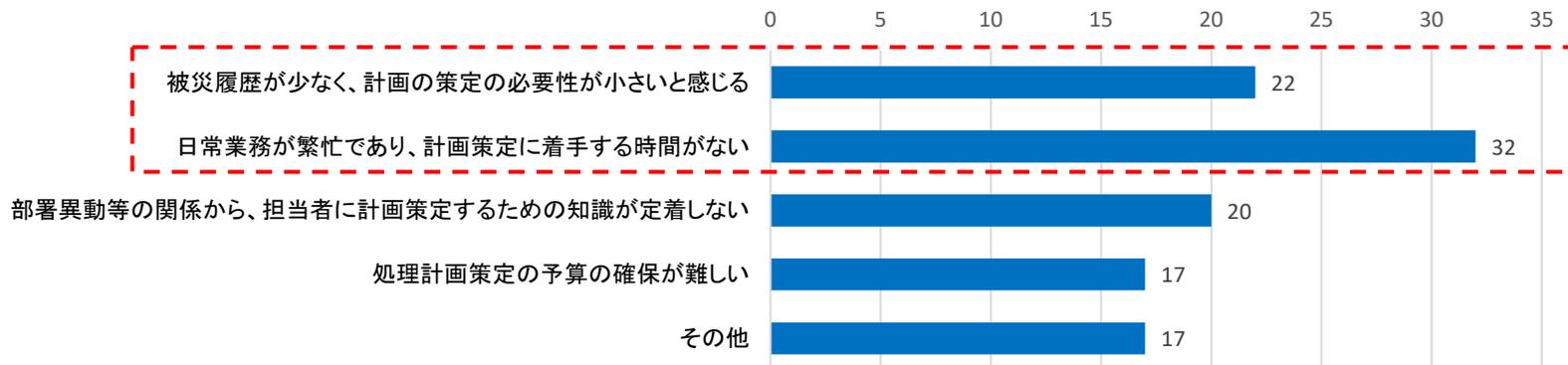
地域防災計画との整合性

発災時、計画を基に、具体的な対応ができるか検証作業が必要

道の計画の変更にともない、市の計画の内容を精査することが必要。具体的実行手順の作成の必要性の検討。

# 災害廃棄物処理計画に関するアンケート結果

## Q4 計画を策定されていない理由(複数選択)



## その他内容(一部抜粋)

次期一般廃棄物最終処分場整備に合わせ計画策定を予定

地域防災計画に併記している

震源地域の場合、大規模災害発生時は災害廃棄物より住民避難が最優先になるとわれ、それを想定した災害廃棄物処理計画の基本案が必要と思われます。

**担当職員が管理職含めても2人しかおらず、区域内の業者が非常に少ないことから区域内協定を結ぶのが難しく、仮置場も教育・福祉施設くらいしかまとまった平地がない状況で、現状のままだと策定しても実効性が著しく乏しいため。**

廃棄物処理は近隣市町村を含め中心市町と連携して行っているため単独での策定は検討していない。

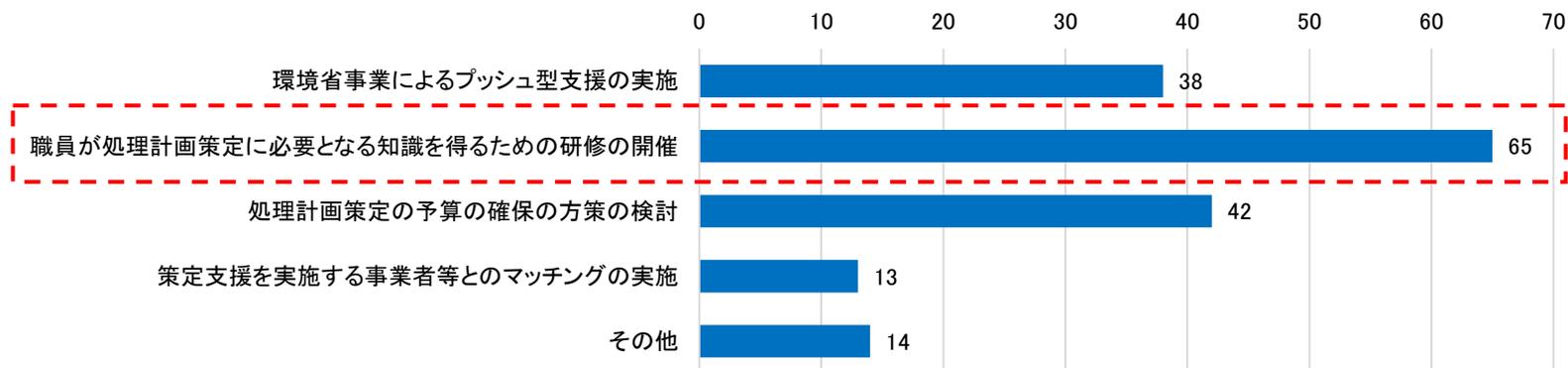
**「災害被害想定」、「地域防災計画」および「ハザードマップ」との整合性や仮置き場選定など他部署との協議を行わないといけないため時間を要している。**

千島海溝沿い巨大地震の甚大な被害想定により、現時点で具体的な処理計画の策定が困難なため。

ごみ処理を日高中部衛生施設組合で実施しているため構成町と計画策定を同時期としたいため。

# 災害廃棄物処理計画に関するアンケート結果

## Q5 計画を策定するにあたって、必要だ(だった)と感じる事項(複数選択)



### その他内容(一部抜粋)

標準ひな形やフローの提示

庁内部局との連携

他部署との連携の継続性

計画策定のための人材配置

発災時の関係機関との協力体制について、大規模であればあるほど、必要となる協力体制が計画上だけのものにならないか、どの程度まで記載出来るのか。

各種セミナーへの参加等による情報収集

市区町村でも活用できる国や道が包括的に結んでいる協定の一覧と概要(市区町村の計画に搭載できるような協定)

策定の最終的な〆切を設けること。

本町が作成したようにテンプレートなどが必要でした。

地域の特殊性を網羅し、課題が多すぎて解決策に苦慮している

策定のためのより具体的な手順の提示

策定支援補助者の派遣等

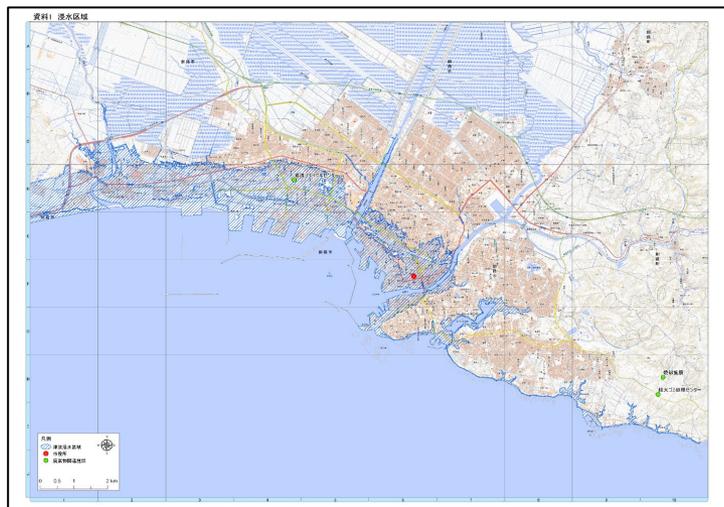
# 人材育成ワークショップ

## 話題提供

1. 災害廃棄物の初動対応とは？
2. 仮置場について
3. 外部(国、振興局、民間等)との連携について
4. 災害廃棄物処理計画の効果

## ワークショップ

- テーマ① 発災直後の初動対応  
テーマ② 災害廃棄物処理計画の効果検討



想定災害図面例(道央エリア)



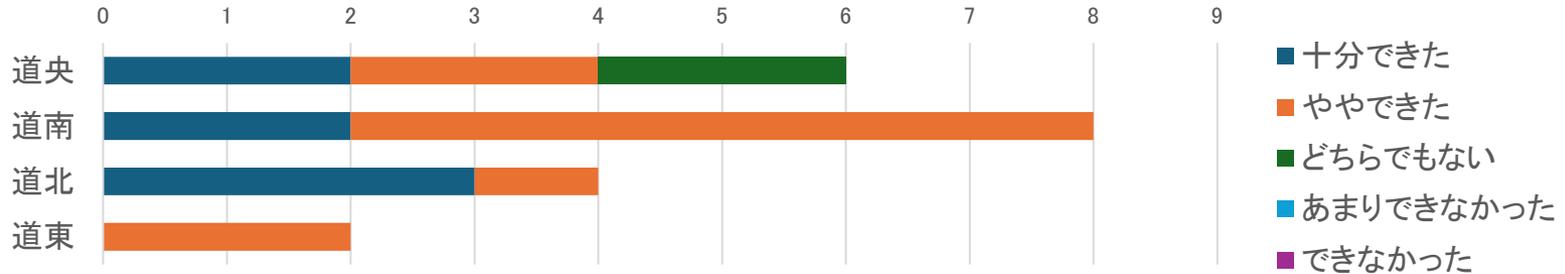
ワークショップの様子

## 想定災害

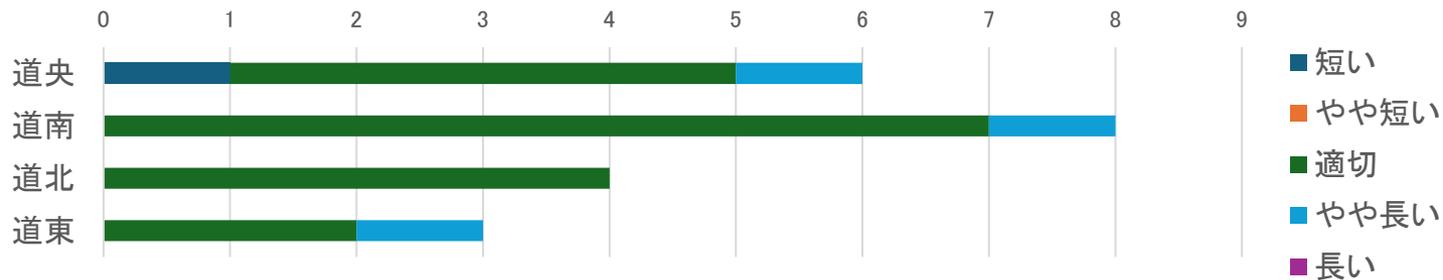
地震、津波(道央、道東、道南)  
大雨による河川氾濫(道北)

# エリア分科会後 人材育成WSアンケート結果

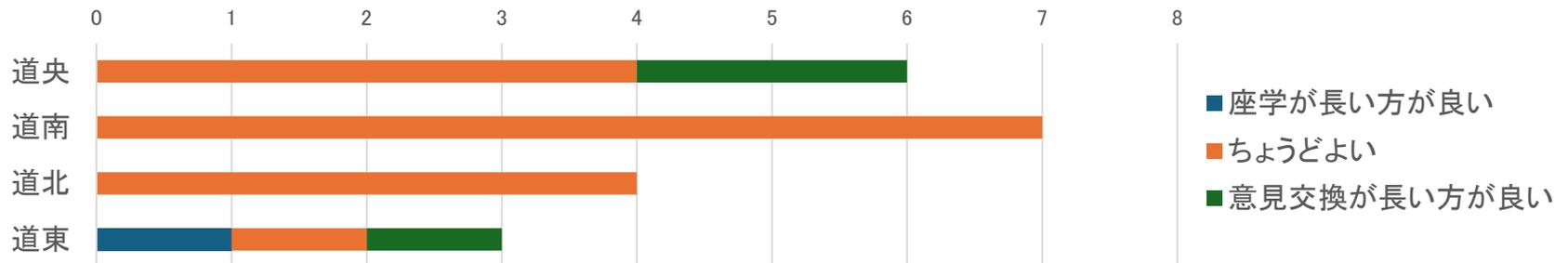
Q1 ワークショップを通じて、発災時の初動対応について、具体的にイメージできましたか。



Q2 ワークショップ全体の時間配分(13時～15時)は適切でしたか。

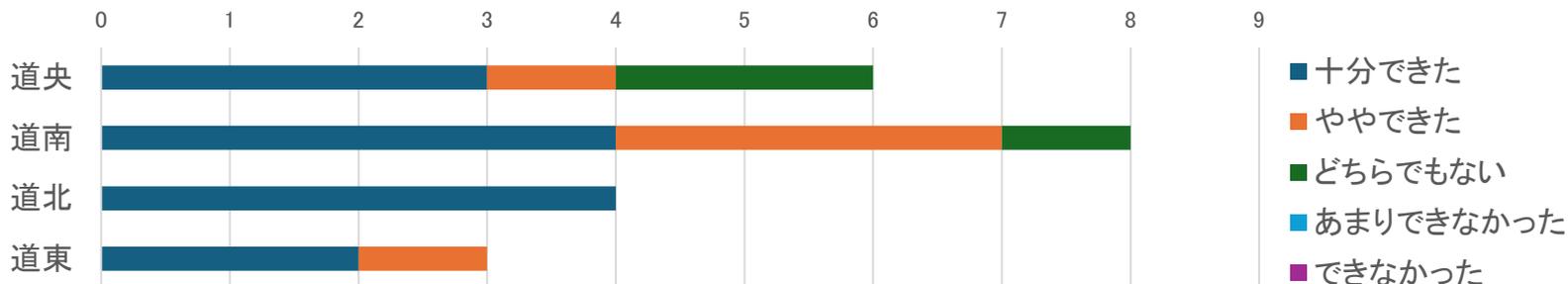


Q3 ワークショップの座学と意見交換の時間配分は適切でしたか。



# エリア分科会後 人材育成WSアンケート結果

Q4 ワークショップの内容は、実際の災害廃棄物処理の場面において、役立つと考えられますか。

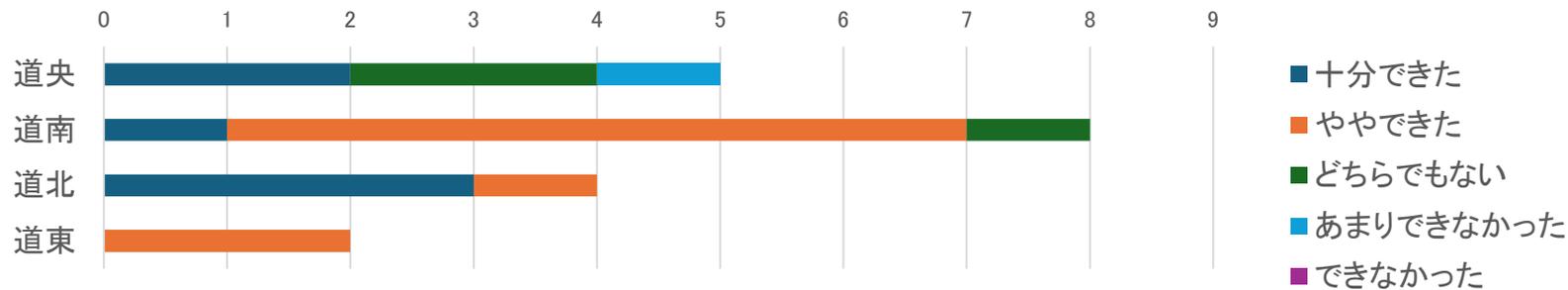


## ワークショップに関するご意見(自由記述)

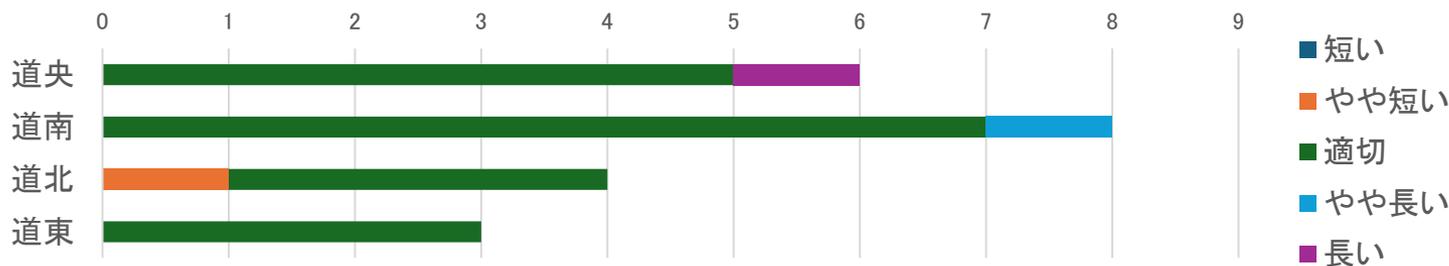
道央	各班が発表し「色々な意見があるね」ということではなく、こういった場合はこう。こういう考え方ではなくて、こう考えるべき等の班別の講評があれば、理解を深めることが出来たと思う。結局何が正解でどういった考え方が正しいのか曖昧であった。
道南	以前参加したWSは、発災前・発災後が一緒になったWSでしたが、今回初動対応からということで、発生したごみの処理についてのみを考えることができ、時間的にも良かったです。 また、せっかく作成した計画を実行できるよう、 <b>計画を意識した事前の取り組みを進めなくてはならないと感じました。</b>
道南	資料3_Q市災害廃棄物処理計画(道南)を事前に読み解けばよかったと感じました。 ワークショップの際は計画書の内容確認まで出来ず、目次だけ確認の方が見受けられました。
道北	全体の参加者が少なかったのが残念でしたが、より多くの班が成立すればさらに多くの意見等が出されたのかなと感じました。
道北	・各自治体からの参加者とワークショップに取り組むことで、自分が見えていない視点に気付くことができた。 ・資料2の地図(土別市)の内容、状況も踏まえた初動対応を列挙するのが望ましいところ、当日の作業で、自分はそのような視点が薄かったので、次回以降は与えられた条件、状況を意識した作業を心掛けたい。
道東	<b>この地域は特に津波の影響を受けやすい地域、且つ行政連携や他団体との釧路地域に合った独自の連携が必要と考えております。他地域での独自連携例などの連携部分のヒントになる座学が欲しいです。</b> また、前述のお話を理由に意見交換が長いほうが良いと記述しましたが、これはその独自連携の座学前提のお話でございます。

# エリア分科会後 災害廃棄物処理基礎講座アンケート結果

Q1 災害廃棄物処理の全体像及び基礎知識について、具体的にイメージできましたか。



Q2 災害廃棄物処理基礎講座の時間(1時間)は適切でしたか。



## 災害廃棄物処理基礎講座に関するご意見(自由記述)

道央	ワークショップの前に開催しても良いかと思いました。
道央	基礎講座をGWより先にやった方がいいと思う。
道南	補助申請は、かなり困難なものだと改めて認識しました。 それについても、申請に必要なとなる様式を縦鼻するなど、事前の準備を進めていきたいと考える。
道北	<b>災害廃棄物関係の業務は常時従事しているものではないので、定期的に一定量の知識を習得し定着させることが必要と考えており、今回の基礎講座は貴重な機会だった。</b> 今後も協議会やワーキングの中で、限られた時間であっても基礎講座の実施を希望する。
道北	災害廃棄物については、今まで考えたことが無かったことから、重要性を認識することができた。
道北	ワークショップの前に開催しても良いかと思いました。

# 令和8年度 エリア分科会代表市町村・代表振興局

## エリア代表選出方法について

- ・輪番制 : 参加機会の平準化
- ・振興局代表と市町村代表は別の管内から選出 : エリア状況の反映
- ・振興局の助言をもとに市町村代表を選出 : 管内状況の反映
- ・代表期間2年間 : 参加負担の軽減
- ・市町村代表の所在地での分科会開催 : 対面参加の機会増

## 上記ルールを基にした選出案

エリア		R06, R07	R08, R09	R10, R11	R12, R13	R14, R15	R16, R17
道央	市町村	苫小牧市	(日高)	(石狩)	(後志)	(空知)	(胆振)
	振興局	空知	胆振	日高	石狩	後志	空知
道北	市町村	名寄市	(宗谷)	(上川)	(留萌)	(宗谷)	(上川)
	振興局	上川	留萌	宗谷	上川	留萌	宗谷
道南	市町村	江差町	(渡島)	(檜山)	(渡島)	(檜山)	(渡島)
	振興局	渡島	檜山	渡島	檜山	渡島	檜山
道東	市町村	釧路市	(オホーツク)	(十勝)	(釧路)	(根室)	(オホーツク)
	振興局	釧路	根室	オホーツク	十勝	釧路	根室

※()書きはそれぞれの振興局管内の市町村